

寺川地
小番
清市1
宝秋1

宝清寺住職 石井前踪
TEL 〇四二五八二六六三
FAX 〇四二五八二六三八七
宝清寺橋墓苑指定石材店 石の武蔵家
現地管理事務所 TEL 〇四二五〇一三三三

お盆について

七月十三日と十六日はお盆です。お盆は、詳しくは盂蘭盆会と言います。古いインドの言葉に、「逆さになるさるるような苦しみ」と言う意味の「ウラバンナ」と言う語がありますが、盂蘭盆会とはそこから来た言葉で、そのような苦しみを救うための供養をさします。

盂蘭盆会の由来については、「仏説盂蘭盆経」にお釈迦さまの弟子の目連尊者が、神通力を使って亡くなったお母さんの様子を探ると、何と、お母さんは餓鬼道に落ちていたのです。目連尊者がお釈迦様に救いを求めると、お釈迦さまは、夏、お坊さま達の修行が終わった後、お供えをしてお参りするようにと教えて下さいました。この法会がインドから中国を経て日本に伝わって来たのは、今から千三百年以上も前だと言われています。

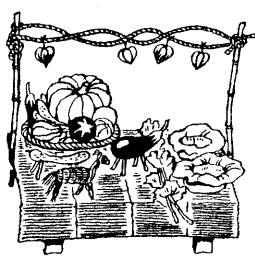
お盆に際し各家のお墓を清掃し、ご先祖の霊をお慰めし感謝致します。
尚、七月十四日(火)十一時より当山にて施餓鬼法要を厳修致しますので、多数の方の参拝を希望します。

お盆の準備

地方によって、また宗派によって様々な習慣があります。お盆は、七月に行われますが、八月に行われるところもあります。まず、お盆の前に墓掃除を行います。そして、十三日の昼ごろまでに精霊棚を飾ります。精霊棚は家に帰って来た精霊が安置される所で、四隅に青竹を立て

精霊棚について

お盆は先祖の霊をお迎えし、送るのですから仏壇や仏具を清め、供える花や野菜を用意しておきます。昔は盆市がたつてお盆の供え物はそこで揃



えました。お盆には「精霊棚」を設けることが多いようです。仏壇を一般庶民の家で備えるようになったのは、江戸時代に入ってからと言われています。それ以前は先祖の霊を迎えるために、棚を作る必要がありました。「精霊棚」はその名残りとも言えます。「精霊棚」が作れない場合は仏壇にお盆にふさわしい飾りや野菜を供えます。キウウリの馬は、先祖の霊がそれに乗って帰り、ナスの牛は荷物を持たせる事を意味します。

★墓参用お花・お線香を常備★

お彼岸の期間中多数の利用者がありましたので、お盆の期間中も常備致します。

お花 一束 五〇〇円
お線香 一〇〇円

てた台の上に真鍮盆を敷いて、先祖の位牌を中心に、供物・灯火・盆花・香・水などを供えます。十三日の夕方には、墓所や門口で迎え火を炊き、先祖を家まで案内します。お盆の期間前に精霊棚と云って、菩提寺から各家々に伺い読経をします。お盆の終わりの十六日には、精霊送りが行われます。精霊棚の供物ひときれを蓮の葉に包んだりわらで編んだ容器に入れて海や川に流してお盆は終わります。

客殿・本堂閣落成 山門・新築計画

早くも、師父日延上人が遷化して、今年九月には三回忌を迎える事になりました。法縁の方々から、中興開基と過分なお善めのお言葉を頂いた父親の、宝清寺興隆の熱意の意志を継承した者として、客殿・本堂閣・山門の建設は何よりの供養になるものと思ひ立ち手がけて参りました。客殿と本堂閣は六月末に完成の見通しが立ちました。客殿は六月二十八日より使用可能です。ご法事の後の会食にご利用頂けます。但し、ご法事の後の会食は、日・件が限度ですので、もし、お寺での会食をお考えの方は、日取りが決定次第早めにご連絡をお願い致します。また、本堂閣はお盆のお施餓鬼法要やお会式の時の受付玄関として、七月から使用致します。更に、山門は九月の前住職の三回忌法要までに完成したかったのですが、残念ながら完成は十一月の初旬になりそうです。

橋の木を栽培

「平成四年度管理料納入のお願い」
平成四年度の管理料について、「たちばな」一号でお願いしましたところ、多くの方の協力を頂きました。またの方は次の方法でお納め下さるようお願い致します。
☆お盆など墓参の時に持参する。
☆銀行振込(多摩中央信用金庫秋川支店)
普通預金 口座番号「11110303」
※多摩信問での振込の場合ネット入金と申し出れば費用は無料です。
(方法は入金伝票に金額と左下に印字という欄がありますので、そこに必ず氏名を記入し、窓口でネット入金と申し出る。)尚、金額の不明の方は遠慮なくお尋ね下さい。平成四年度を納入済みの方は次年度から、前記の方法でお願いします。

大越 一優

我々は木に根が無くしては美が成らないように、父母・祖先がおられた故に自分の生がある事は自明の事です。木に根があり美がなるのは自然の理です。それと同様に、我々が父母・祖先に感謝し、供養する事も自然でなければ成りません。「法華経・神力品」に「塔を起して供養すべし」云々と書かれています。その塔と言うのが、塔婆を意味します。又、目連聖人は「中興入道御消息」に、中興入道夫妻が幼子の娘の十三回忌に塔婆を立てて、その面に「南無妙法蓮華経」と書き表したのを聞いて、娘のみならず亡父母の追善と遺立者の現当二世を説いている更にも、その末尾に「此より後々の御塔婆にも法華経の題目を願し給え」と説かれています。お盆には志す御霊・ご先祖に塔婆供養をお勧め致します。